



資料館だより

No.22
2009年
1月号

過去と未来がひびきあう

ようこそ、エコミューズへ

www.aozora.or.jp/shiryou/

あおぞら
財団付属

西淀川・公害と環境資料館

エコミューズ

資料館リニューアル ボランティアさん奮闘

13枚のパネルを展示するために、資料館の様態替えをしました。備付けの棚を動かすには資料を外へ出さないと。しかしこれは、あまりに大変…。そんな私たちに救世主があらわれました。大阪電気通信大学の学生さんたちがボランティアに来てくれました。よかった、よかった。(12月5日)



どこもかしこも資料だらけ。これ、また元に戻さないといけません。



今日はここまで。で、記念撮影



できあがり。こんなにキレイ。ぜひ、みなさん見に来てください。

公害解決に尽力した人が登場する展示 おひろめ会で登場人物が語る



新たに設置した杉の壁面は、木のいい香りがすると好評です。

展示パネル「公害 みんなで力をあわせて 大阪・西淀川地域の記録と証言」の完成・おひろめ会を12月12日に開催しました(あおぞらビル3Fグリーンルーム)。展示の閲覧および交流会には、あわせて26人が参加しました。交流会では展示に登場している面々が当時の様子を語りました。



△ 中学校教諭の立場から子ども達を公害から守るために様々な取り組みをおこなった西口勲氏(歌鳥中学校元教諭)

西淀川公害の展示パネル 完成・おひろめ!

この展示を作成するにあたっては、2007年度に寄付を募り、多くの方々の協力で50万円が集まりました。この資金で展示のデザイン、印刷、資料室のリニューアルをおこないました。どうもありがとうございました。展示はフルカラーB2版で13枚、4月からは貸出もおこないます。さらに、海外へも発信していこうと、現在、中国語へ翻訳中です。公害解決に携わった人々の熱い思いが、この展示パネルを通じて広がっていくことを願っています。



公害被害者として、常に積極的に活動してきた永野千代子氏(西淀川公害患者と家族の会事務局長)



◁ 「ある日のエコミューズ」を利用者と職員のやり取りを交えて紹介する森本米紀氏(エコミューズ資料整理スタッフ)

△ エコミューズの資料を活用した研究事例を発表する入江智恵子氏(大阪市立大学大学院生)



△ ワイワイなごやかな交流会でした

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 第34回奈良大会に参加 (11月12日~13日)

大会では公文書に対しての意識が高まってきているこのごろ、資料の利用活用をどうして行けば良いのか、色々な議論がなされました。分科会「検証される自治体史編さんと自治体アーカイブズ 近畿の現状から考える」の報告で尼崎市立地域研究史料館の島田克彦氏からエコミューズの活動が地

域再生事業の中に裁判記録を始めとするアーカイブが位置づけられている。地域資料も視野に入れている」というように取り上げられました。12年間、こつこつと続けてきたことが評価されるのはうれしいことです。

また、エコミューズの活動を支えてくださっている方々から「資料館だよりを読んでいます」と声をかけてもらったのも、うれしかったです。

もりもとまきの アーキビストの目 所蔵資料紹介

海の向こうの公害地域 - この目で確かめに -

エコミューズでは、海外の公害地域の様子を伝える、多くの写真資料も所蔵しています。たとえば、1990年4月、公害輸出監視日本法律家委員会の「東南アジア環境調査」に参加した森脇君雄氏（当時全国公害患者の会連合会事務局長、現あおぞら財団理事長）が、インドネシアやマレーシアを訪れた際の行程を記録した写真約400枚があります。現地では当時、日本企業が出

資している工場が原因で、多くの人々が公害病で苦しんでいました。調査団の目的は、その実態調査と被害者との交流でした。

インドネシアでは、工場からジャカルタ湾に、水銀や鉛が垂れ流されていました。写真は、汚濁した海面や公害病に苦しむ患者のようすなどをとらえています。マレーシアでは、プキメラという村で、工場が発ガン性物質をずさんに取り扱っていました。病気を恐れた住民が逃げ出し閑散とした街や、その物質が原因とみられる白血病に侵された少女の姿が残されています。この村では調査団の歓迎集会が開かれ、森脇氏は「公害の被害者を二度と出さないため日本からやってきました。連帯して戦おう」と呼びかけました。大きな会場



公害患者の少女にお土産を手渡す
森脇君雄氏

を埋め尽くす地元住民のようすからは、その熱気が伝わってきます。

これらの写真は、公害がもたらす苦しみや立ち向かう勇気を、国境を越えて分かち合う過程をとらえた貴重なもの。後世に残していきたい、大切な資料です。

ブログ版もあります！
<http://aozorabsw.exblog.jp/i11/>

アーキビストとは、文書や資料の収集・整理・保存に関わる専門家のことです。



こんにちは新着図書です

財団法人水俣病センター相思社 『どんずい』108
特集：「日本の公害」その1 2008年11月25日



「日本の公害」を特集テーマとした本号では、(財)水俣病センター相思社スタッフの坂西卓郎氏がおこなった、森脇君雄氏と岡崎久女氏へのインタビュー記事が収録されています。その他、四日市公害については粟屋かよ子氏が、富山「イタイイタイ病」問題での取り組みについては、エコミューズの鎗山が、投稿しています。

公害問題は過去のこととして扱われがちです。しかし本号を読むと、今、世の中で起こっている様々な問題と公害問題は、構造上その起因を同じくしているということを感じます。

年間6回発行 / 購読料2,100円1部315円

お知らせ
エコミューズ活動資金
「ハモン基金」
寄付協力をお願い
エコミューズを支えてく
さい。あなたの寄付金は青
空へつながります。
寄付の方法
郵便局からお振込いただ
けます。また、直接エコミ
ューズにお越しただいても
結構です。
【口座】十万円 / 一万円 /
千円
【口座番号】
010960191
124893

加入者名「あおぞら財団
通信欄」に「ハモン基金」の
寄付とご記入ください。
一口の金額はお選びくだ
さい。
ボランティア隊
「エコミューズ」募集
あなたも「エコミューズ」に
入っちゃおう！資料整理や
展示、イベントの手伝いなど
活躍の場がいっぱいです。
交通費、実費支給（上限
2,000円）
どうぞお気軽にお問い合わせ
ください。



エコミューズの活動は
Hamon基金によって支えられています。



編集後記

エコミューズには遠方からもお客様が来られます。11月26日には、和歌山県から「くに国際高等専修学校」の生徒8人が人権教育の一環として来られました。事前学習がしっかりしていて、頼もしい高校生たちでした。12月4日にはJICA（国際協力機構）の海外研修で、中国やインド、パキスタンなど各国の行政職員5人が来館しました。言葉の壁を乗り越えての交流となりました。(Y)

資料館だより No.22
2009年1月号（隔月1日発行）
発行所 あおぞら財団付属
西淀川 公害と環境資料館
（エコミューズ）
連絡先 大阪市西淀川区千舟1-1-1
あおぞらビル5F（〒555-0013）
TEL:06-6475-8885 FAX:06-6478-5885
Email: webmaster@aozora.or.jp
http://www.aozora.or.jp/shiryou/



エコミューズは
青空を未来へ手渡す記録のひろば

西淀川の公害 環境、地域に関する記録資料や環境学習の教材、ビデオなどが豊富です。ぜひご利用ください。
開館 月曜日、金曜日（祝日は休み）
10:00AM ~ 5:00PM [要予約]
利用 図書の貸し出し期限は2週間
書庫資料や裁判記録は閲覧のみ